

## 原田メソッド認定パートナー養成塾 第1回知識テスト 問題用紙

下記の( ① )～( ⑳ )にそれぞれ当てはまる、適切な語句または数字をお答えください。

問1 私たちの戦後の高度経済成長を支えたものづくりは、( ① )社会の管理型教育から生まれました。インターネット誕生(1969年)以降の( ② )社会では、自ら未来を創造し、0から1を生み出すための教育と、自立型、共創型のマネジメントが求められているのです。

問2 原田隆史が代表を務める株式会社原田教育研究所は、その理念の中で世界( ③ )を掲げています。この教育が世界の人々、地域や国の自立と( ③ )に貢献することを理想としているからです。

問3 これからの時代が求める人は、「自立型人間」です。「自立型人間」とは、自分の人生・未来を切り拓く勇気と( ④ )を持つ人のことをいいます。日々起こる様々な出来事に対して、「( ⑤ )」として臨む姿勢を持っています。( ⑥ )が加速し、先行き不透明な情勢の中、社会ではこのような人材がますます求められています。

問4 周りの変化を求める前に、まず自らが変わり、変化を生み出そうとする考え方や生き方の態度を「( ⑦ )」といいます。

問5 「自立型人間」は、「 ⑧ 」を土台として、自らが持つ能力を発揮し、未来を切り拓きます。成果を生み出せる仕事力と、人として( ⑨ )のバランス。どんなに素晴らしいスキルを持ち成果を出し続けていても、その人の持つ「( ⑨ )」が未熟だと、幸せには繋がりません。

問6 「自立型人間」は3つの「自立」を実現することで、未来を切り拓いていきます。3つの自立とは、「経済的自立」「精神的自立」「( ⑩ )的自立」をさしています。

問7 「原田メソッド」が他と一線を画しているのは、「( ⑪ )」に重きを置いている点です。原田が指導した陸上部の子供たちは、学校生活だけでなく、家庭生活にも学びを取り入れて成長しました。陸上部で活動した多くの生徒が、社会人になった今は教師、医療関係者、警察官、消防士、介護福祉士、保育士、経営者等になり、社会に貢献し、社会から必要とされる人財となり活躍を続けています。

問8 「( ⑪ )」には、「心を( ⑫ )」「心をきれいにする」「心を強くする」「心を( ⑬ )する」「心を広くする」という5つのアプローチ方法があります。

問9 「( ⑭ )」とは、人の生き方を積極的にし、主体的に物事に取り組む姿勢を育むことです。原田メソッドではわかりやすく、「心の( ⑮ )を上向きにする」と表現しています。このようなことが得意な指導者、リーダー、先生、保護者の活動を観察分析すると、次のような特徴があることがわかりました。

- 1) 清掃活動、( ⑯ )活動、エコ活動の実践
- 2) 「( ⑰ )」=時間を守る。場を清める。礼をただす。
- 3) ( ⑱ )の気持ちで人に接する。
- 4) 脱いだ靴を揃える。
- 5) 席を立つときはイスを入れる。
- 6) 人の話は目を見て聞く。
- 7) 「ハイッ！」と元気よく返事をする。

そして、その行動を自らが( ⑲ )で実践していました。( ⑳ )に必要なポイントは「自らやってみせる」ということにあるのです。

問10 「( ㉔ )」とは、アメリカの犯罪学者ジョージ・ケリング博士により提唱されたもので、1枚の割れた窓ガラスを放置すると、割られる窓ガラスが増え、その建物全体が荒廃し、いずれ街全体が荒れてしまうという理論です。

問題は以上です。  
お疲れ様でした。

# 原田メソッド認定パートナー養成塾 第1回知識テスト 解答用紙

氏名

得点

---

①	②
③	④
⑤	⑥
⑦	⑧
⑨	⑩
⑪	⑫
⑬	⑭
⑮	⑯
⑰	⑱
⑲	⑳

原田メソッド認定パートナー養成塾 第1回知識テスト 解答用紙

氏名 模範解答 得点

① 工業化	② 情報化
③ 平和	④ 実行力
⑤ 主体者	⑥ 少子高齢化
⑦ 主体変容	⑧ 人格
⑨ 人間力	⑩ 社会
⑪ 心づくり	⑫ 使う
⑬ 整理	⑭ 態度教育
⑮ コップ	⑯ 奉仕
⑰ 躰(の)三原則	⑱ 感謝
⑲ 率先垂範	⑳ 割れ窓理論 (ブローケンウィンドウ理論)

## 原田メソッド認定パートナー養成塾 第2回知識テスト 問題用紙

下記の( ① )～( ⑳ )にそれぞれ当てはまる、適切な語句または数字をお答えください。

問1 「原田メソッド」で追い求める成功とは、「自分にとって価値のある目標を未来に向かって設定し、決められた期限までに成し遂げること。そして他者や社会に( ① )すること」を指しています。

問2 技術の獲得は、目標です。その技術が手に入ると「技能」になります。このことを原田メソッドでは「( ② )は技術である」と定義しています。

問3 競技力の高いスポーツ選手や、仕事で成果を上げる人は、その結果を出すことを最初に決めていました。( ③ )は、目標達成に向かう過程でのモチベーション維持や、結果に対する主体者意識、周囲に対する感謝の気持ちを含みます。

問4 成功者は、強い心を持っていました。どんな困難や逆境でも乗り越える強い「忍耐力」や「意志の力」、また目的・目標に対して「なにがなんでも」という強い思いがありました。このような強い思いを( ④ )と呼びます。

問5 結果を出す人は、いつまでに、何を、どうするのか、という期日を決めた行動と、毎日成果につながるための行動を自分で決め、やり遂げようと取り組んでいました。このことを原田メソッドでは( ⑤ )形成と呼びます。

問6 「自立型人間」は成果に直結している「心・技・体・生活」の4つの要素をバランスよく高め成果を上げていました。また、仕事と私生活のバランスは近年、課題となっていますが、原田メソッドでは「ワーク・ライフ・バランス」ではなく、「ワーク・ライフ・( ⑥ )」を提唱しています。

問7 オープンウィンドウ64の手順について、以下にお答えください。

1. 取り組むテーマを決める。
2. ( ⑦ )を8つ書き出す。
3. 8つそれぞれから、さらに8つの( ⑧ )を生み出す。
4. 1つのテーマに対して $8 \times 8 = 64$ 個の( ⑧ )が生まれる。

問8 OW64に( ⑨ )を設けて考えることが大切です。一回の思考(8マスを埋めること)に対して適切な( ⑨ )は、約4分です。

問9 ( ⑨ )を設けるとは「考えるスピードを上げざるをえない状況」意図的に作り出すことで、こうすれば脳の思考のスピードも自動的に高まるのです。あえてスピードにこだわって、「( ⑩ )で完成させる」ことを目標にしましょう。

問10 OW64を使って、個人の強みに過ぎなかった行動が、他者や組織全体の強みに変化し、より強力な組織を作ることが可能になります。それは、他者の知識をそれ以外の人に取り入れることで可能になります。このことを原田メソッドでは( ⑪ )と呼びます。

問11 目的・目標設定にはポイントが2つあります。

- |   |
|---|
| (1) その目的・目標は「自分が本心から( ⑫ )を感じるもの」であるかどうか。<br>(2) 「( ⑬ )を判断できるもの」であるかどうか。 |
|---|

問12 やってみたいことや、成し遂げたい夢が、なぜ、「やってみよう」「成し遂げてみよう」に変わらないかを考えると、「いつやってみたいのか」「いつ成し遂げたいのか」を決めていないからです。「いつ」=( ⑭ )ということです。

問13 原田式長期目的・目標設定用紙で奉仕活動を設定する理由は以下の3つです。

- |  |
|--|
| (1) 「身の回りの( ⑮ )を取り除く」<br>(2) 奉仕活動を継続すれば、その過程で「自分に負けずに取り組む」という( ⑯ )が身につく<br>(3) 「あなたの( ⑰ )を磨く」<br>→ 奉仕活動に取り組むことを、ゴールに対する「( ⑱ )」と呼んでいます。 |
|--|

問14 原田メソッドでは、仕事とは、「自他の( ⑲ )の利益を生むもの」であり、目的と目標を常にセットで考え、しかも未来に対する4観点で整理していけば、徐々に、どんなゴールも、決して自分一人の力で達成されるものではない、と気づくはずです。

問15 自分の周りの人々へ「手伝ってください」「力を貸してもらえませんか」と、支援を求めることが重要になってきます。成功する人は、何もかも一人で成し遂げるのではなく、自分以外の人々と助け合いながら、ゴールへと進んでいます。人を助け、人から助けられる人とは、つまりは( ⑳ )が高い人ということです。

問題は以上です。  
お疲れ様でした。

原田メソッド認定パートナー養成塾 第2回知識テスト 解答用紙

氏名

得点

---

①	②
③	④
⑤	⑥
⑦	⑧
⑨	⑩
⑪	⑫
⑬	⑭
⑮	⑯
⑰	⑱
⑲	⑳

原田メソッド認定パートナー養成塾 第2回知識テスト 解答用紙

氏名 模範解答 得点

---

① 貢献	② 成功
③ 目的意識	④ 勝利意識
⑤ プラスの習慣	⑥ ハーモニー
⑦ 基礎思考	⑧ 実践思考
⑨ 制限時間	⑩ 短時間
⑪ 知の移植	⑫ 価値
⑬ 達成の可否	⑭ 達成の期日(達成する日)
⑮ すさみ	⑯ 忍耐力
⑰ 人格	⑱ 間接的努力
⑲ 物心両面	⑳ コミュニケーション能力



## 原田メソッド認定パートナー養成塾 第3回知識テスト 問題用紙

下記の( ① )～( ⑳ )にそれぞれ当てはまる、適切な語句または数字をお答えください。

問1 上手くいく人は、往々にして、目の前の出来事に対しては「平常心」であたるようにしているものです。この平常心こそが( ① )能力です。平常心は、自分でつくることのできるのです。

問2 継続して出したい成果を出す成功のプロと、たまに成功するアマチュアとの違いは、未来予測と( ② )力にあります。プロとは、与えられた仕事で、確実に期待通りまたはそれ以上の結果を出す人のことをいいます。プロと呼ばれる人ほど、仕事を始める前の予測や( ② )力を入れているものなのです。

問3 貴重な気付きを、【心・技・体・生活】のすべての面において自分を成長させるチャンスに変えていくには、気付きを( ③ )に変えることが大切です。

問4 「成功・強みの分析」と「失敗・弱みの分析」、予想される問題点に対する「解決策」で得た気付きをもとに、「ルーティン( ③ )」「期日( ③ )」をつくり、ゴール達成への( ④ )を補強し新しい( ③ )を書き足します。

問5 毎日、日誌を書くということは、毎日「考える＝( ⑤ )する」時間を持っているということです。

問6 「日誌」は、徒然に書くのではなく、毎日何を書くのかの項目を決めて、その日の( ③ )、考え、振り返り、( ⑥ )を記録します。まるで定点観測のように、積み重ねるごとに、自分の変化や成長がわかるようになります。

問7 日誌の持つ8つの力は以下の通りです。

- |                           |                    |
|---------------------------|--------------------|
| 1. ( ⑦ )能力【前日に次の日の予定を決める】 | 2. ( ⑤ )【予測・予言・準備】 |
| 3. 重要な仕事を選択し、( ⑧ )を集中させる  | 4. 自己分析            |
| 5. ( ⑨ )を高める              | 6. プラス( ⑥ )の習慣づくり  |
| 7. 成功の習慣づくり               | 8. ゴール達成までの気付きを得る  |

問8 今日の良かったことは、2つの観点から書きます。

1. 自己( ⑩ )【仕事( ⑩ )ともいいます】に関する事柄です。( ⑩ )とは、仕事や勉強でうまくいったときに感じる感情や心の動き、得られる自信のことです。
2. ( ⑪ )に関する事柄です。( ⑪ )とは、自分への肯定的な感情のことであり、自分自身に出すOKサインのことです。

問9 自己( ⑩ )や( ⑪ )に共通して大切なのは、その成果を得たときに、どんな気持ちでしたか、どのように嬉しかったのか、どんな感情を得たのか、などの「( ⑫ )」に関する記載をすることです。

問10 ストロークには、相手を褒めることや認めることなどの( ⑬ )strookと、相手を叱ることや注意することなどの否定的strookの2種類があります。( ⑬ )strookが良いstrookで、否定的strookが悪いstrookではありません。

問11 ストロークには (1)肉体的strook (2)心理的strook (3)( ⑭ )strook (4)無条件strook の4つの領域があります。

問12 ストロークは「( ⑮ )」であることを理解し、意識してもらい。意識して相手に与えることが大切です。

問13 ストロークが欲しいときに、strookを与えてくれる人を「( ⑯ )」と呼びます。

問14 やる気や元気を生み出す経験を文字に残すことを「( ⑰ )」といいます。言い換えれば「( ⑰ )」は、自分で自分に与える( ⑬ )strookということになります。

問15 相手に対して与えるstrookの中でも、特に相手の心に響くstrookのことを「( ⑱ )strook」といいます

問16 数を数えることができ、質を感じる事ができ、種類を判別できるものは、全て( ⑲ )することができます。ということは、人のやる気、元気は( ⑲ )できる、ということになります。

問17 適度な緊張と適度なリラックスが共存していて、高い集中力が発揮され、しかもプラス( ⑥ )である状態を「理想的心理状態( ⑳ )」といいます。

問題は以上です。  
お疲れ様でした。

原田メソッド認定パートナー養成塾 第3回知識テスト 解答用紙

氏名

得点

---

①	②
③	④
⑤	⑥
⑦	⑧
⑨	⑩
⑪	⑫
⑬	⑭
⑮	⑯
⑰	⑱
⑲	⑳

原田メソッド認定パートナー養成塾 第3回知識テスト 解答用紙

氏名 模範解答 得点

---

① セルフコントロール	② 準備
③ 行動	④ 行動計画
⑤ イメージトレーニング	⑥ 思考
⑦ タイムマネジメント	⑧ エネルギー
⑨ 自信	⑩ 効力感
⑪ 自己肯定感(自尊感情)	⑫ 情動
⑬ 肯定的	⑭ 条件付
⑮ 心の栄養	⑯ メンター
⑰ 自己認識	⑱ プラチナ
⑲ マネジメント	⑳ ゾーン

## 原田メソッド認定パートナー養成塾 第4回知識テスト 問題用紙

下記の( ① )～( ⑳ )にそれぞれ当てはまる、適切な語句または数字をお答えください。

問1 学校教育の世界に目を向けると、今注目を浴びているのが「( ① )評価」という教育手法です。「( ① )評価」とは、知識を確認するペーパーテストだけでははかることができない「児童生徒の思考力・判断力・表現力などの( ② )学力」を可視化して評価する、新しい発想の評価手法です。

問2 この「( ① )評価」のためのツールが( ③ )です。( ③ )は、「対象となるパフォーマンスを評価するための観点(評価するポイント)」と、「その観点ごとに、そのレベルや質の段階分けをしたもの」を、一覧表の形にしてあります。例えば、フィギュアスケートやダンスなどの演技、ピアノなどの楽器の演奏、ポスターなどの作品を「( ④ )」で評価する場合には、評価の観点と達成レベルを段階分けで示した( ③ )がとても重要な役割を果たします。

問3 「原田メソッド( ③ )」では、評価基準(達成レベル)を3段階で設定します。それぞれを、( ⑤ )(評価C、必要最低限のレベルはクリアしている状態)、( ⑥ )(評価B、成長途中の状態)、( ⑦ )(評価A、最高の状態)と呼びます。

問4 原田メソッドは、ゴールの達成を目指しますが、そのプロセスでの( ⑧ )や、プラスの習慣形成、人間的成長、自己肯定感の向上などに重きを置く、教育システムです。結果が出たかどうかではなく、自分が決めたゴールを、どんな方法で、どんな道のりをたどって、どんな工夫をしながら達成したのか、そのプロセス自体に、結果と同じかそれ以上の価値があるのです。

問5 新5大ツールについて

- シナリオつくりの原田式長期目的・目標設定用紙【長目】
  - 行動の本質に迫るオープンウィンドウ64
  - プラスの習慣を形成し忍耐力を育てる( ⑨ )
  - 成功の最小単位である日々をマネジメントする最強ツール・( ⑩ )
  - 主体的な成長とB型学習の集大成・原田メソッド( ③ )
- の5つを、原田メソッド・新5大ツール、と呼んでいます。

問6 原田隆史指導信条について

- 一寸先は…( ⑪ )です
- ( ⑫ )・イズ・マネー
- 成功は( ⑬ )である
- 敵は誰ですか、( ⑭ )です
- 仕事と思うな、( ⑮ )と思え

問7 原田隆史プロフィールについて

- \*株式会社原田教育研究所 代表取締役社長
- \*一般社団法人JAPANセルフマネジメント協会 代表理事
- \*三重県政策アドバイザー
- \*ビジネス・( ⑯ )大学 経営学部教授

( ⑰ )市生まれ。奈良教育大学卒業後、( ⑰ )市内の公立中学校に20年間勤務。保健体育指導、( ⑱ )に注力、問題を抱える教育現場を次々と立て直し「生活指導の神様」と呼ばれる。独自の育成手法「原田メソッド」による、勤務3校目の( ⑲ )中学校の陸上競技部を7年間で( ⑳ )回の日本一に導く。( ⑰ )市教職員退職後、大学講師を経て、起業。「原田メソッド」に多くの企業から注目が集まり、企業研修・人材育成の分野で活躍。これまでに約330社、63,000人のビジネスマンを指導した実績を持つ。

問題は以上です。  
お疲れ様でした。

原田メソッド認定パートナー養成塾 第4回知識テスト 解答用紙

氏名

得点

---

①	②
③	④
⑤	⑥
⑦	⑧
⑨	⑩
⑪	⑫
⑬	⑭
⑮	⑯
⑰	⑱
⑲	⑳

原田メソッド認定パートナー養成塾 第4回知識テスト 解答用紙

氏名 模範解答 得点

① パフォーマンス	② 見えない
③ ルーブリック	④ 共通の基準
⑤ ベンチマーク	⑥ マイルストーン
⑦ キャップストーン	⑧ 心の成長
⑨ ルーティンチェック表	⑩ 日誌
⑪ 光	⑫ タイミング
⑬ 技術	⑭ 私
⑮ 人生	⑯ ブレークスルー
⑰ 大阪	⑱ 生徒指導
⑲ 松虫	⑳ 13